

ワクチン注射後は免疫細胞が腕に集合する

<作成: stnv基礎医学研究室>



ワクチンを腕に注射する



ワクチンなどの異物が腕の皮下や筋肉に注入されると、それを処理するために多くの白血球（リンパ球や顆粒球）が注射部位や近隣のリンパ節に集まってくる。その結果、白血球は本来の仕事に対する力が割かれ、全身的な防御力（免疫力）が一時的に低下する。



現場ではこのような事が起こる
（＝炎症）

免疫細胞は動き回れる。そして、その活動は現場で行われている。一体どこを見ているのだ！？



受験前など、肝心な時の1週間前から当日までは、何らかのワクチンを注射することは絶対に避けなければならない。

もし、注射してしまえば、防御力が一時的にも低下するため、防ごうとしていたウイルス感染症や、常在病原ウイルス（带状疱疹ウイルスなど）の活動に見舞われる。



(出典: REUTERS × アフロ)



警備力や、人々の注意が他所に移っているときに、空き巣狙いのチャンスである。どこからでも入れる！

予期せぬ事件に、大勢の警察官や消防隊などが集まって来て処理を行っている